京都教区時報

https ://www.kyoto-catholic.net/

カトリック京都司教区
広報委員会
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

2023年　司教年頭書簡
コロナ時代を生きる信仰Ⅲ
「わたしのシノダリティを創ろう」を受けて

第5回　善いサマリア人

年頭書簡で述べられている通り、『善いサマリア人』のたとえ話は、「ともに生きること」（シノダリティ）を実現するための福音です。そして、コロナ禍は、このたとえについて学ぶ機会でした。

コロナ禍の経験を通じて、誰もが、倒れて助けを必要とする人となる可能性があることを実感しました。そして、倒れた人に簡単に近づくことができないという現実も体験しました。その一方で、たくさんの善いサマリア人がいることに、あらためて気づかされました。仕事だから、報酬を受けているのだから当然だという考えがなくなりました。

瀕死の状態で倒れている人、その人を見て通り過ぎる人、そして、気の毒に思い、近寄り助ける人。私は今、自分がこの三人のいずれにもなりうると思っています。そして、自分に問いかけています。

もし、自分が道で倒れてしまい、助けてもらったら、心から感謝できるだろうか。そして、次は、自分が善いサマリア人になろうと思えるだろうか。

もし、自分が困っている人を見て、通り過ぎる人になったら、心の痛みを感じるだろうか。今度こそ、自分が善いサマリア人となって、立ち止まって、助けようと決心できるだろうか。

もし、自分が善いサマリア人になれたら、自分のことを誇らず、神に、まわりの人に、心から感謝できるだろうか。善いサマリア人になれなかった人を責めないだろうか。

このたとえ話は、本当の幸いを得るには何をしたら良いかという問いかけへの答えです。そして、答えであるたとえ話は、倒れていた人の隣人になったのは誰かという問いかけで終わります。

だから、私も、自分に問いかけています。この問いかけを、まわりの人と分かち合っていきたいと思います。そして、みんなで善いサマリア人になっていけたらと思います。一人で善いサマリア人になることはできないと思います。たとえ話の善いサマリア人は、宿屋の主人の助けを必要としました。みんなが、いつも善いサマリア人になることはできません。

だから、エリコへの道をともに歩みながら、みんなで善いサマリア人になっていけたらと思います。

シノドス担当司祭　一場　修
（京丹ブロック担当司祭）

旅人を見送るひとりの善いサマリア人

司教年頭書簡は
こちらから→

6
2023

ミサを学ぶⅡ
ミサあなたとともに
～新しい典礼について学ぼう～
3月25日（土）開催

報告　信仰教育委員会

信仰教育委員会では、これまで教区の小学新5・6年生対象に春休みを利用して、2泊3日の侍者合宿を行ってきましたが、コロナ禍で3年侍者合宿を行うことができませんでした。今年も残念ながら合宿は断念しましたが、昨年同様、しっかり感染対策をしながら、子どもたちにミサについて学んでもらう機会を作りました。

西陣教会の聖堂をお借りし、ミサについて学びました。3年間侍者合宿がなかったことを考慮して、対象は、新5・6年生、新中学1年生から3年生とし、感染対策の観点から、開催時間は午後1時半から3時半までの2時間としました。また、子どもたちの送迎をしてくださる保護者やリーダーのなかには、時間的に一旦帰ることができない方もいらっしゃるので、希望者には参観していただくことにしました。

当日は、桜が満開の会場に、新小学5年生7名、6年生4名、中学1年生7名、中学2年生3名、中学3年生2名の23名が集まりました。前半は、新しい典礼について、小立花神父から、「何が、どう変わったのか」のお話がありました。後半は、侍者服に着替えて「侍者の役割」について考えた後、ウイリアム神父からミサで使う祭器具の名前と使い方の説明を聞きました。そして、十字架、香炉、香舟を持って行列し、実際に入堂の練習をしました。また、4つのグループに分かれて、香炉と香舟の使い方を練習しました。最後に、大塚司教からお話をしていただき、修了証書を手渡していただきました。

参加者は、真剣にお話を聞いたり、練習をしたりして、短い時間ではありましたが、充実した「学び」をすることができました。この3年間、小教区のミサが無い期間があったり、ミサがあっても典礼奉仕ができない状態が続いていた教会があったりで、とても残念でした。また、昨年11月末にミサの文言が変わりましたが、そのことについて、子どもたちが学ぶ機会があまりなかったと思います。この「ミサを学ぶⅡ」で、子どもたちに、少しでもミサや典礼奉仕について学んでもらう機会が持てたことは、意義深いことであったと思います。ただ、半日のスケジュールでは、遠方の教会からは参加できない、内容も限られるなど、課題もあります。従来のように侍者合宿がいつか再開できる日がくるよう、祈りたいと思います。

＊＊＊＊＊　青少年委員会より　＊＊＊＊＊

高校生会「春の集い」　桃山教会にて　3月31日開催

桃山教会で「高校生会春の集い」が開催されました。

午後2時に桃山教会に集まった8名の参加者は自己紹介をし、当日の福音箇所であるイエスが石で打ち殺されそうになる場面（ヨハネ10章31〜41節）の朗読を聞き、イエスの受難と死を黙想する大切さを学びました。その後、キリシタン処刑の地である宇治川の河岸を歩いたり、長建寺境内のマリア灯籠を見学したり、月桂冠大蔵記念館隣接の「高山右近ゆかりのイエズス会伏見教会への小路」を訪れたりしながら、色とりどりの花が咲き乱れる春の伏見桃山界隈を散策しました。坂本龍馬ゆかりの寺田屋や黄桜河童資料館にも立ち寄りました。

教会に戻り、ミサをささげ、最後に信徒の方の手作りのピーチババロアとピーチソーダをいただき、分かち合いました。素晴らしいお天気と満開の桜に恵まれる中、歴史ある伏見の街並みを巡り、この地での信仰の遺産に触れることができました。ご協力いただいた桃山教会の皆様、ありがとうございました。

今夏にも行事を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

高校生会担当司祭　菅原友明

中学生会「春の集い」Walk in spring　唐崎メリノールハウスにて　3月30日開催

春の中学生会を無事に開催することができました。前回の冬の中学生会に続き2回目の対面開催ということで色々と準備をしてきました。

前回とは違い、春ということで新しく中学生になる仲間もいる中、どうしたら中学生達に喜んでもらえるのか、どうしたら皆で仲良くできるかなど、考えることは沢山ありました。

そんな中、みんなで体を動かして親睦を深められたらと思い、屋外でのレクリエーションの時間を多めにとることで、話したことがなくても仲良くなれるキッカケになればと思いました。分かち合いでは、ヨハネの15章を元に神父様にお話していただき、新学期ということもあり、友情をテーマに話し合いをしました。中学生みんなそれぞれ意見を出し合ってくれて、とても意義ある分かち合いができたと思います。

中学生会リーダー　西院教会　唐橋征太

「京都 みんなで捧げるミサ」の裏側

「京都 みんなで捧げるミサ」をご存じでしょうか。

2020年、コロナのためにミサが中止になり、いち早くミサのオンライン配信が始まった教区もありました。しかし京都教区は、オンライン？YouTube？ どうやって？ だれが？…の世界で、知識も技術も遅れていました。

しかし、いつになったらミサができるようになるのか一向にわからない、暗闇の中にいる状態が続いている時、ビデオカメラを購入し、カルメル修道会に掛け合い、手探りでミサの配信が始まりました。2020年7月、それ以降、主日のミサを配信しています。

コロナが落ち着き、京都教区でもミサが再開され、ようやく歌の制限もなくなりました。しかし、様々な理由でミサに参加できない人たちのことを考えて、ミサの配信を続けています。カルメル修道院の聖堂が映り、最初から最後まで一本撮りのミサ、司式司祭以外映ることもありません。どのようにミサが行われ、録画されているのでしょうか。復活節第3主日のミサを取材させてもらいました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

衣笠にある女子跣足カルメル修道会は観想修道会ですので、シスターは祈りの中で一日を過ごしておられます。ミサの動画で映っている祭壇のあるところは、外部聖堂と呼ばれます。動画では映りませんが、その奥が内部聖堂と呼ばれ、禁域となっているところです。10人のシスター方は、内部聖堂でミサに与っておられました。

動画を撮影するためのビデオを、ちょうど外部聖堂に近い内部聖堂の端に設置し、ミサの開始に合わせそのスイッチを押してくださるのは、望洋庵におられるイエスのカリタス修道女会のシスターです。

この日は北村神父の司式ミサでした。神父の穏やかな声と、シスター方の晴れやかな声が聖堂に響くと、外からウグイスが声を合わせてさえずり始めました。美しい声の朗読や聖歌の歌唱を生で聞くと、パソコンで視聴する動画では感じられない感動に満たされました。オルガン奏者のシスターは、90歳を超えておられるそうです。ベテランのオルガニストを中心に、心をこめて奉仕し、ミサを祝っておられるということが伝わってきました。

「京都 みんなで捧げるミサ」が続いているのは、カルメルのシスター方がこうしてご奉仕してくださっているおかげだと、しみじみ感じました。

この日のミサの動画を、耳を澄ませてご視聴ください。ウグイスの鳴き声も聞こえてきます。

取材・広報委員会

「京都 みんなで捧げるミサ」の動画の視聴はこちらからどうぞ←

トマのつぶやき

かつて人は詩人だった

かつて季語を語れば、月日を語る必要がなかった。折々の時の流れの中で、人は詩人だった。

詩は人を敬虔な祈りの人とする。自然の中に神の思いを読み取った。

花にも言葉があった。散る花に風情を感じ、祈りを感じていた。そこにはあはれとも思う静けさがあった。ところが今はどうだろう。

気候変動、環境破壊、砂漠化……自然が悲鳴をあげている。その原因はどこかにある。胸に手を当て黙すれば。誰にもわかるはず。

だけどあまりの忙しさに、喧騒に、心の祈りを、静けさを忘れてしまった人間。あぁわれ。われ、あはれ。

村上透磨

2月18日に帰天された村上透磨神父は、病院のベッドの上で、「トマのつぶやき」の原稿を書いてくださっていました。遺稿を掲載します。

広報委員会

京都カトリック青年センター開館日時について

京都カトリック青年センターは、青年の諸活動をバックアップするための機関です。

青年活動に興味がある方や、京都に来たばかりの青年の方が、京都教区の青年とつながることができるようお手伝いいたしますので、是非ご連絡ください。

また、青年センター主催のイベントなどについての情報を、ＨＰ、Facebook、Twitterにて発信していますので、ご覧ください♪

≪青年センター開館日≫
水曜日　10:00～12:00
木曜日　13:00～16:00

＊青年センターは、西陣教会の敷地内にある西陣青年会館の３階にあります。

青年センターあんてな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のＱＲコードからも確認できます。

大塚司教スケジュール

お　知　ら　せ

教　　区

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日　時：７月８日㊏ 13:00〜17:00
場　所：聖ドミニコ女子修道会京都修道院
（京都市上京区河原町通今出川下ル梶井町）
講　師：小立花 忠神父（京都司教区）
対　象：青年（18〜35歳 高校生不可）
参加費：500円
問合せ、申込み：信仰教育委員会
申込締切：６月25日㊐
ＱＲコードより詳細をご覧ください

聖書委員会

オンライン聖書講座

ともに歩んでくださる神
―シノダリティの心をもとめて―
第１回「旅するもの」５月11日から３か月配信
講師：大塚喜直司教（京都司教区）
第２回「旅の始まり」５月25日から３か月配信
講師：一場修神父（マリスト会）
第３回「この道を歩む」６月８日から３か月配信
講師：菅原友明神父（京都司教区）
第４回「主の道を生きる」６月22日から３か月配信
講師：西経一神父（神言修道会）
要申込、有料
ＱＲコードより詳細をご覧ください

広報委員会

Fax：075-366-6679
メール：honbu@kyoto.catholic.jp
教区時報８月号の原稿締切日は６月19日㊊です。

ブロック

奈良ブロック

2023年度聖書講座（対面講座）
ともに歩む教会〜マタイ福音書による〜
われらと共にいる神（インマヌエル）

第３回「小さな人びとの中のインマヌエル」
日時：６月10日㊏ 10:30〜12:00
場所：奈良教会
講師：奥村 豊神父（京都司教区）
会費：1,000円受付にて
信者でない方、学生は無料
問合せ：090-4485-9968 シスター服部
（電話時間は必ず19:00〜21:00）

滋賀ブロック

安土セミナリヨ記念ミサ

日時：６月17日㊏ 13:30〜15:30
雨天の場合は７月１日に延期
場所：安土セミナリヨ公園
近江八幡市安土町下豊浦
公共交通機関：ＪＲ琵琶湖線「安土」下車
徒歩20分
駐車場：臨時駐車場を準備しますが、なるべく公共交通機関をご利用ください
問合せ：090-3168-6285 尾崎紘一
（安土セミナリヨ記念ミサ実行委員会）

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団

祈りと聖歌の集い　６月11日㊐ 14:00
河原町教会聖堂　一般の方も参加自由
問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練習　６月８日㊍ 10:00　22日㊍ 10:00
河原町教会２階楽廊
問合せ：075-701-3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日　時：６月20日㊋ 13:00〜15:00
場　所：希望の家地域福祉センター
京都市南区東九条東岩本町31-10
問合せ：Tel・Fax：075-723-1135　傳 裕子

心のともしび　ラジオ番組案内

（全国34局で放送）

ＫＢＳ京都	㊊〜㊏	朝５:55
	㊏	朝５:15
ラジオ関西	㊊〜㊏	朝５:00
	㊐	朝６:05
毎日放送	㊊〜㊏	朝５:45
	㊏	朝４:55

６月のテーマ「ふれあい」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉をご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』笠松幸彦さんまでお申込みください。
Tel・Fax/072-722-0271